

リンロン®テープの効果検証

ポリエチレンテープのらせん巻きによるクマハギ防護法は、1990年初頭から防護効果が認められてきており容易で安価な資材として現在も広く採用されている。リンロンテープはポリエチレンテープの欠点である、腐敗しないため林地に散乱することや、一部が樹皮にくい込む事を生分解することで解消した資材です。

リンロンテープの素材であるポリ乳酸樹脂は、トウモロコシ等の植物由来の樹脂で加水分解し微生物分解によって二酸化炭素と水に分解します。しかし、特に微生物が豊富な環境でなければ、一般の合成樹脂と同様にほぼ安定であることから、比較的長期間(5年±2年)原型を維持します。

リンロンテープは、2004年の発売開始から、過去8年間の各地の施工地を検証して生分解の期間はおよそ5年±2年と設定しポリエチレンテープと同様の効果が実証されていることを確認しました。



★現場の環境によって分解速度が大きく変わります

●各地で施工され効果を上げていますが、一部の地域で施工2年～3年経過後に剥皮害が再発する事例が報告されました。動物の習性は地域性があり原因を特定するのは困難ですが、被害再発現場を観察するといくつかのテープ巻き施工の共通点が見えてきましたので報告いたします。

① 巻き高さが低い

テープの上部から引きずりおろす



② 巻き間隔が広い



*隙間から剥皮する

③ 巻きが緩い(特に地際部分)



*容易にテープがほどけ地際から上部へ剥皮する

理想的な巻き方



高さ : 1.5m
 巻き間隔 : 10 cm以内
 巻き強さ : 地際まで強く
 *50 cm程度テープを垂らすと約1年視覚的効果が期待できる